船舶事故調査報告書

令和３年４月２８日
運輸安全委員会（海事専門部会）議決

事故種類	浸水
発生日時	令和２年８月１１日　０９時００分ごろ
発生場所	兵庫県淡路市岩屋港南南東方沖 岩屋港北防波堤東灯台から真方位１６４°１,３６０m付近 （概位　北緯３４°３４.７′　東経１３５°０１.６′）
事故の概要	プレジャーボートオオガキＪｒ（ジュニア）は、釣りを行いながら漂泊中、浸水した。
事故調査の経過	令和２年８月１７日、主管調査官（神戸事務所）を指名 原因関係者から意見聴取手続実施済
事実情報 船種船名、総トン数 船舶番号、船舶所有者等	 プレジャーボート　オオガキJr、０.２トン ２４４－２４２５９福井、個人所有
乗組員等に関する情報	船長、一級小型・特殊
負傷者	なし
損傷	船外機に濡損
気象・海象	気象：天気　晴れ、風向　南東、風力　３、視界　良好 海象：海上　波高　約１.０m、潮汐　低潮時、海水温　約２４℃
事故の経過	本船は、船長が１人で乗り組み、友人１人を乗せ、淡路島東岸沖の釣り場で、釣りを始めたものの、波が高いので一旦近くの港に避難した。 本船は、再び同じ釣り場に向かい、船首を北西方に向けて漂泊を始め、再び釣りを始めたところ、船尾方から約１mの波を受けて浸水し、バケツで排水作業を行ったものの、水船状態となり、その後、近くの陸岸に漂着した。 船長及び同乗者は、船を脱出し、防水型の携帯電話で友人に助けを求めるほか、救命胴衣を着用した状態で近くの陸岸まで泳ぎ、救助を求めた。 本船は、乾舷の高さが約０.５mであった。 船長は、係留場所から沖に出た際、波が高いと感じたものの、これまでも波が高い状況で何度も釣りに出掛けており、運航上支障はないと判断し、釣り場に向かったが、出航した後、釣りをあきらめてすぐに引き返せばよかったと本事故後に思った。
分析	本船は、船長が、出航後に波が高いと感じたものの、運航上支障はないと判断し、釣り場に向かったことから、漂泊中に船尾部の舷側を越えた波が打ち込んで浸水し、水船状態となったものと考えられる。
原因	本船は、船長が、出航後に波が高いと感じたものの、運航上支障はないと判断し、釣り場に向かったため、漂泊中、船尾部の舷側を越え

	た波が打ち込んで浸水し、水船状態となったものと考えられる。
再発防止策	今後の同種事故等の再発防止に役立つ事項として、次のことが考えられる。 ・小型のプレジャーボートの船長は、出航する際、波が高いと感じた場合、無理をせず、出航を控えること。また、出航後、波が高くなってきた場合、直ちに引き返すこと。